



# いわて鳥獣保護センター通信

第六号

発行日  
平成22年10月7日

## ○現在の収容鳥獣と救護状況



| 獣類      |         |
|---------|---------|
| ホンシュウジカ | オス1、メス1 |
| ノウサギ    | オス1     |
| 猛禽類     |         |
| トビ      | 10      |
| ノスリ     | 4       |
| フクロウ    | 1       |
| チョウゲンボウ | 2       |
| コノハズク   | 1       |
| その他の鳥類  |         |
| オオハクチョウ | 30      |
| コハクチョウ  | 1       |
| マガン     | 1       |
| ヒシクイ    | 1       |

現在、当センターで終生飼育されている野生鳥獣の収容状況を上の表に示します。

平成22年の8月1日から10月2日の間にセンターに搬入された野生鳥獣はスズメ（5）、ヒヨドリ（4）、オオタカ（2）、ウミネ

コ、トビ、シジュウカラ、カワセミ、カッコウ、ハイタカ、ゴイサギ、アブラコウモリ、タヌキ、オオジシギ、アカショウビン、カワラバト、ハチクマ、ノスリ、カルガモ、キビタキ、カモシカ、キジバト、ヤマドリ、ウグイス、オオヨシゴイの計24種32個体でした。

この時期は、猛禽類の若鳥が独り立ちするための重要な時期です。獲物を追いかけているときに網に絡まったり窓に衝突するなどの事故を起こした、餌が取れなくて衰弱したなどのオオタカの若鳥が毎年1、2羽運び込まれ、体力の回復と餌をとるための再訓練を受けて放鳥されます。見た目は強そうな猛禽類たちも、一人前に生きていけるようになるためにはいろいろ苦労しなければならないようです。

また、この時期は渡り鳥たちの移動が始まります。北方で夏を過ごしたオオハクチョウなどの冬鳥たちが姿を現し始め、夏鳥たちは越冬地の南の国に向けて旅立ちますが、傷付いてセンターに運び込まれ渡りの時期を逃してしまった夏鳥たちはセンターで越冬です。



## 鳥獣保護センターでのボランティア活動について

岩手県鳥獣保護センターでは「飼養ボランティア」と「一般ボランティア」の二種類のボランティア制度があり、様々な活動がおこなわれています・・・が、実際のところボランティア登録をされている多くの皆さんには、いつ、どんなことをやっているか全く情報がないというのが現状だと思います。そこで、最近の「一般ボランティア」の活動の実情について紹介しましょう。

鳥獣保護センターでのボランティア活動というと、収容された動物たちの世話や治療・リハビリの手伝いをするというイメージをもたれる方がほとんどだと思いますが、実はそういう活動をお願いすることはほとんどありません。この理由は、いろいろな動物たちの様々な状況に合わせて世話や治療をするためにはある程度の経験が必要だからです。動物の世話や治療を特に体験されたい方には「職場体験」や「インターンシップ」などがあります。

鳥獣保護センターで行われているボランティア活動は基本的にこちらの要望と本人の希望が合ったものをお願いさせていただくこととなりますが、内容は大きく「環境整備」と「標本作製」に分けられます。



「環境整備」とは約4ヘクタールもある広大な敷地の管理が主で、夏場は草刈りや飼料用作物の畑の管理、老朽化した施設の補修などがあります。もちろん時期によって内容は変わりますし、天候にも左右されますが、基本的に肉体労働です。鳥獣保護センターのイメージとはかけ離れたように思われるかもしれませんが、実はセンターの業務の大きな割合を環境整備が占めています。草刈り機やノコギリ、金づち、鋤、斧、ナタなど普段手にすることのない方々には意外と好評です。スポーツは苦手だけど、休日にちょっと汗をかいてみたい、そんなあなたに向いています。

「標本作製」はセンターに運び込まれ、残念ながら助からなかった動物たちの体を教育や研究のために役立つ標本を作る仕事で、ここでは毛皮のなめし、剥製、骨格標本の作製などを行っています。死体の解体などの作業もありますが、そういう現場が苦手な方に無理にお願いするようなことは決してありません。きれいに仕上げた骨を立体的に組み立てるプラモデルのような作業もあります。知識や経験のない方でもやり方は職員や先輩ボランティアから習うことができます。なめしや解体などの標本作りの技術を身をもって体験することは、動物の体のつくりや違いを理解するのにとても役立ちます。下の写真は学生のボランティアの方々が剥製の作り方を習っているところです。初めてでも意外と立派な標本が出来上がりましたよ！



ボランティア活動は個人でもグループでの参加でもかまいませんが、今回紹介した活動以外でもボランティアを希望する方の興味や知識、技術によってほかにもお願いできることもあるかもしれません。

センターには通常1、2人のごく少数の職員しかいないため、突然の来訪には対応できかねる場合があります。ボランティア活動を希望される方は、まず事前に活動内容についてセンターで打ち合わせる必要がありますので、まずお電話で担当の渡辺までご連絡をお願いします。



「飼養ボランティア」とは野生復帰できる見込みがなく鳥獣保護センターで終生飼育しなければならないもの、もしくは長期の療養期間が必要な動物を一定期間個人の施設で預かってもらうという制度です。こちらについてはまた別の機会に紹介させていただくつもりです。





## 野生動物ピックアップ

### アカショウビン (*Halcyon coromanda*, Ruddy Kingfisher)

太くて長い、大きなくちばしと赤褐色のきれいな羽色がアカショウビンの特徴です。ブッポウソウ目カワセミ科で、カワセミやヤマセミの仲間ですが、これらは一年中日本国内で生活する留鳥なのに対し、アカショウビンは夏場だけ姿を見せる渡り鳥で、鳥獣保護センターにはひと夏に1, 2羽運び込まれてきます。

愛嬌のあるスタイルと美しい羽色でとても魅力的なトリですが、飼育するに当たっては餌に慣れさせるのが一苦労です。自然の中では生きた小魚やカエル、サワガニなどを獲って食べているので、



カワセミ

センターで冷凍保存したワカサギなどを与えても最初は見向きもしてくれません。ちょっとかわいそうな気もしますが、まずは強制的にワカサギを呑み込ませて体力を落とさないようにし、早く施設や餌に慣れてもらうしかありません。この苦労は他の多くの魚食性のトリでも同様です。

溪流や湖沼近くの林の中に生息し、鳴き声は「キョロロロ」。あまり人目に付くトリではありませんが、5月から8月頃に水辺の森の中で声が聞こえたら、少し待ってみると飛び立つ姿が見られるかもしれませんよ！

## クイズ! 僕だあれ?!

### 問題1：謎のトリ



ヒント:

これじゃよく見えないよう!!って、これがこの鳥の習性です。人の気配を感じるとずっと立ち上がり、おなかを向けてくちばしを高く突き上げ、じっとしたまま動きません。今では希少種になりつつある...

(答えは次のページ)

### 問題2：謎のホネ



ヒント:

これはある動物の体を構成する骨の一部で、下にあるのは30cmの定規です。かなり大きくて不思議な形をしていますよね、岩手にいる動物を考えながらあててみましょう!

(答えは次のページ)



## 岩手県鳥獣保護センター

○所在地 〒020-0173 滝沢村滝沢字砂込390-29

○電話・FAX:019-688-4728

(不在の場合、お名前と連絡先を留守伝言のメッセージに残していただくと折り返し連絡します。)

○開所案内

年末～年始(12月29日～1月3日)を除く年中無休

午前8時30分から午後5時15分 (ただし、臨時に変更になる場合があります。)

○ケガや弱っている鳥獣を見つけたら、まず、ケガや衰弱の具合を見ることが大切です。むやみに手を触れたりせず、元気であればそっとしておいてください。ケガや衰弱のため、動けないようであれば、最寄りの広域振興局の保健福祉環境部又は保健福祉環境センターにお知らせください。なお、傷病鳥獣の状況により、しばらく様子を見守っている場合もあります。センターのスタッフが直接救護に向かうことは基本的にありません。

○鳥獣保護センターに傷病鳥獣を直接搬入される場合、それぞれの動物やケガ、症状に合わせた受け入れ態勢を整えて待機しますので、できるだけ事前にセンターまで御連絡いただきますようお願いいたします。

○センターの見学や研修、野生鳥獣・標本の貸し出しやボランティア活動などを希望される場合は、所定の手続きが必要です。岩手県自然保護課もしくは鳥獣保護センターに連絡し、手続きについてお問い合わせください。

## センターへのアクセス



## クイズの答え：

### ○問題1

答えはオオヨシゴイです。水辺のヨシ原などに問題の写真のようなポーズで潜み、カモフラージュして外敵に気づかれないように身を守ります。餌の取り方も同様に、じっと動かずに小魚やカエルなどが気付かずに近づいてくるのを待ち構えるので、野外で存在を気付くのはとても難しいです。

よく似た種類にヨシゴイがあります。見た目も生息地も生活もそっくりですが、目の黄色い虹彩に黒い斑点がついている方がオオヨシゴイです。

オオヨシゴイは最近では個体数がとても少なくなり、絶滅の危機がささやかれるようになっていきます。



### ○問題2

写真の骨はオオハクチョウのもので、上が腰椎と複合仙骨（腰からお尻）、右下が胸骨と烏口骨（胸から肩）、左下が鎖骨（胸元）です。大きな体を空に飛ばすため、強靱な筋肉をたっぷりにつけられるように胸骨がとても発達しています。左の写真は全身の骨を並べたものです。発達した上腕骨は人間の腕や足の骨と間違えられそうなほどの大きさですが、空を飛ぶために重さはとても軽くなっています。

